



とも たの 偕に楽しむ - 第20号 -

第13回大名庭園サミット水戸・東京大会

大会テーマ 大名庭園 藩主のおもい
 開催日 令和元年11月11日(月)～12日(火)
 会場 常陽芸文センター(シンポジウム)
 水戸京成ホテル(交流懇親会)
 エクスカーション(水戸市内コース)



サミットのメイン行事はシンポジウムです。常陽藝文センターホールを会場に各加盟10団体から172名、来賓12名及び一般参加・スタッフ83名、合わせて267名の参加があり、ほぼ満員の盛況でした。いばらき夢ガイドの益子歩美さんの司会で、根岸実行委員長の開会宣言、末大会会長の挨拶、茨城県知事など来賓挨拶、祝電披露、各加盟団体紹介、の順で進められました。続いて本多副実行委員長による趣旨説明、原祐一氏による基調講演「水戸藩の庭園 江戸と国元」がありました。休憩を挟み、10団体の代表とコーディネーターの進士五十八氏が壇上に揃い、テーマトーク「大名庭園 藩主のおもい」が行われました。各代表がそれぞれ藩主のおもいを熱く語る中、時間超過が生じたため進士先生がブレーキをかける場面もありました。続いて大会宣言が読まれ、閉会の辞で終わりました。

シンポジウムに先立ち、役員会が開催され、加盟10団体代表計27名、及び進士氏、原氏が参加しました。開会挨拶の後、議事に入り総会報告及び宣言文が提案され決定しました。

その後テーマトークの進め方を話し合い、また団体の継続性が共通の課題であることから、アンケート調査を行った集約結果が配付され、各団体の説明がありました。最後に東京の提案で、台風19号で被災した水戸市に10団体から10万円の見舞金を送ることが決定されました。

ごあいさつ

会長 湊 正雄

「第13回大名庭園サミット水戸・東京大会」は、皆様のご協力ご支援のもと盛会に開催できました。全国大名庭園関係者が一堂に会して、シンポジウム・交流会・2日目はエクスカーションと、和やかに遂行できました。心より御礼申し上げます。



今回の大会は、東京小石川後楽園との共催により、さらに深い結びつきが出来たことを嬉しく思います。全国から参加の皆さんも水戸の魅力を堪能された事と思います。会員の皆さんが一つのことにより力を合わせると、大きな事業も出来るという確信も出来ました。

今、偕楽園を取り巻く環境は、有料化に伴い、いろいろの問題が起きております。私たちは偕楽園公園に関して、一番身近で熱心なものが言える団体かと確信しております。それだけに責任をもって協議し、行政や関係機関と力を出し合って、「もっと魅力ある偕楽園公園」を目指したいと思います。

コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、密閉の空間・場所・場面を避けるため、総会も文書を以て行います。皆様方のご健勝を心よりお祈りいたします。

交流懇親会は、みとちゃんや黄門漫遊一座のお出迎えで水戸京成ホテル瑠璃の間へのご案内し、大江戸伝統芸能成田さんのお囃子に乗って始まりました。開会式の中で、大名庭園民間交流協議会10団体より、被災した水戸市の高橋市長に災害見舞金が贈呈されました。20のテーブルには各庭園の方が混じって着席されるよう配慮しましたので、我が庭園自慢と活動ノウハウの話が盛んになり交流を深めて行きました。

料理の中に黄門料理を1品入れて、説明を加えたことは印象に残ったのではないのでしょうか。神田真紅さんの熱のこもった講談、星野由里子さん率いるジャズバンドの昔懐かしい歌や演奏で盛り上がり、さらに彦根の皆さんのお囃子踊りには多くの参加者が長い行列を作るなど賑やかさは最高潮となりました。水戸市植物公園の「アカザの杖を作る会」からの杖の贈り物には皆さん大喜び、来年担当の広島縮景園の団長さんは、太く格好よく曲がった杖を獲得しての言「こりゃあ頑張らにゃあいけんのう。この杖をシンボルにするけえ来年はみな来てつかあさいよ!」



成田家笑仙社中と一緒に



彦根ばやしを会場みんなで



黄門さまの音頭で乾杯!!

エクスカーション

エクスカーションは大会2日目の11月12日にお客様68名、スタッフ25名の総勢93名の事業で実施しました。まず偕楽園表門から入園。陰から陽の世界を堪能して頂き、吐玉泉の湧き水、徳川斉昭公の思いが綴られた偕楽園記の碑、仙奕台を代表する見晴らし広場を案内しました。

好文亭では時間をかけて説明し、楽寿楼から見下ろす借景に皆さん歓声を上げシャッターを切りました。続いて徳川ミュージアム、徳川家歴代受け継がれてきた歴史ある財宝の展示を見学して頂き、3カ所目は弘道館で展示や施設を案内。大手橋を挟んで正面に再建中の真新しい水戸城大手門を見て頂きました。

最後は、弘道館記の碑が収められている八卦堂を、弘道館事務所主任研究員の小塚のり子氏がたっぷりと解説しました。サプライズで水戸の思いが詰まったおにぎりと、水戸の名水をプレゼントしました。水戸駅南口でスタッフの全員で見送りお別れしました。



黄門漫遊一座のお出迎え



楽寿楼よりの展望に歓声



小塚さんより八卦堂の説明を聞く

偕楽園公園のより一層の魅力向上への提案書作成

委員会では、本年度4つのエリア(沢渡川周辺、旧6号周辺、千波湖周辺、西の谷・大工町)を散策し、特に景観と観光について会員間で意見交換し、「報告書」にまとめました。

各エリアとも、多くの自然を残しています。今後とも、その景観を維持・向上させながら観光との調和・整備を進めていくことを希望し、特に以下の三つを重点施策として検討して頂くよう提案しています。

※「報告書」は、会のホームページに掲載、提案書は関係機関に配布



会員講師による「偕楽園の魅力を考える」

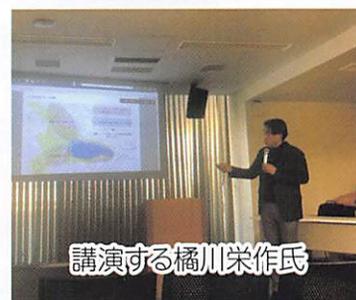
令和2年1月26日、水戸市役所2階市民協働会議室に於いて勉強会が開かれました。第1部、会員の林和男氏による「偕楽園で育まれた樹木を活かした工芸品を模索する」として、偕楽園の剪定した梅の枝の提供を受け試作した「梅染め」や、同じく偕楽園の孟宗竹を使った楽器、竹琴やカスタネット等の制作。さらに笠間市岩間竹細工工房の協力による、孟宗竹のスピーカー等を展示し、竹琴の音を体験したりしました。

ストーリー性を持った「偕楽園ブランド」を新たに発信する興味深い提案がなされました。第2部は「偕楽園公園魅力向上を考える」として、県営業戦略部参事橘川栄作氏に最近の公園行政情報と、会場からの質疑に回答していただきました。要旨は次の通りです。

- ・偕楽園本園を有料化した代わりに魅力あるものにしたい。
- ・民間コンサルタントの提案がいかなる構想も、水戸市と地域の人々の合意形成を重んじる。
- ・とにかく観光収入の増進を促し、それを教育や福祉の発展に繋げたい。
- ・「このままでよいのか」という思いは無視出来ないもので、行政としてやれることはやって行く。



講演する林和男氏



講演する橘川栄作氏

講師陣3名でリニューアル「弘道館 やさしい論語塾」へ



特別講師
安岡定子先生



小畑のり子先生



小畑 優先生

開講12年目になりました。題名は「弘道館 親子の論語塾」から「弘道館 やさしい論語塾」へリニューアル。講師はこれまでの安岡先生に、弘道館学芸員の小畑のり子先生、元教師の小畑優先生が加わり3名になりました。安岡先生が特別講師として年2回、小畑先生、小畑先生が隔月毎に担当して下さいます。



弘道館は、江戸時代齊昭公が開設した学び舎、ロマンあふれる空間でもあり、論語の素読を通して思いやりや、やり抜く強い精神力をゆっくり育てて行けます。

大人の受講生が多くなり子どもたちと共に、楽しいと笑顔です。毎月申込み受付中。「広報みと3月1日号」には募集要項が掲載されています。お待ちしております。

※本年度の論語塾はコロナ感染症防止のため、前期休講といたします。10月より開講予定。

春のウォーキング 「史跡・名所めぐり」～備前堀周辺の歴史・旧跡を巡る～

令和になって最初のウォーキングは、風薫る5月20日(日)、「史跡・名所めぐり」～備前堀周辺の歴史・旧跡を巡る～コースとし、34名の参加がありました。

浜田小学校前の児童公園を10時に出発、案内者は魅力向上委員会の西原・岡野・黒澤の3名です。要所々々で、隠れた水戸の歴史や物語を説明。皆さん興味深く熱心に聞きながら歩きました。銭谷稲生神社、赤沼牢屋敷跡、桜川堤防、備前堀取水口、竈(かまど)神社(休憩後写真撮影)、鎮魂橋、道明橋、三又橋、常陸山橋、新川のコースです。出発した公園までの道のり約5km歩き、11時55分に帰着しました。その後、三々五々と輪になって配られた弁当とお茶を頂きました。新緑の木陰でいただくお弁当の美味しかったこと!歩き疲れた事もわすれ、参加者で意見交換・感想などが述べられました。

アンケートにも応えて頂き、午後1時に解散しました。



稲生神社参拝



参加者の皆さん笑顔で

偕に楽しむつどい 雨天中止のお詫び

11月23日(祝)恒例の秋の「紅葉狩りウォークと偕に楽しむ集い」は荒天続きのため、やむを得ず中止になりました。約60余名の参加希望者に中止の連絡が大変でした。楽しみにしている方々も多く、来年度こそはとお約束しました。

偕楽園花パートナー

毎月第1月曜実施している花パートナー活動。四季折々を感じさせる花たちが、

思い思いに咲いてくれます。月1回の活動で花壇を訪れるたびに、その変化を観るのがとても楽しみです。多年草を主体に造りましたので、山野草や名もないような花が、置かれた環境で可憐に一生懸命生きている姿に感動します。参加者は、湊会長以下10名程度で、土に触れ額に汗することで身体がリフレッシュ!窺苑広場から見上げる偕楽園のシンボル好文亭をとり巻く風景が季節ごとに異なり 梅の時期はことさら見事です。ウォーキングや犬の散歩の方とも顔なじみが出来ました。

作業後のティータイムはおしゃべりが弾み、楽しいひと時です。



編集後記

令和元年は、東京オリンピック開催を翌年に控え、スポーツの祭典に向けての機運が高まりつつある中、相次ぐ台風の襲来で水戸市は大水害を被り、県や市の関係機関はその対応に追われる毎日でした。私たちは大名庭園民間交流協議会による「第13回大名庭園サミット」開催を担当する大事な年でした。諸事情により東京・水戸共催で行うことになり、1年前から、隔月ごとに水戸・東京を行き来しながら実行委員会を持ち、ようやく本番に漕ぎつけました。開催に至るまで、多方面に亘り関係機関のご協力・ご支援を頂き、心より御礼申し上げます。本号はサミット報告と、会員の年間活動報告です。折しも梅まつり最盛期に、新型コロナウイルスの流行で、至る所に弊害を及ぼしています。一日も早い収束が待たれます。

偕楽園公園を愛する市民の会 事務局

住所:〒310-0845 水戸市吉沢町2-22 TEL/FAX: 029-247-0438

発行日:令和2年4月 発行:偕楽園公園を愛する市民の会

協力:(株)ロシナンテ お問合せ:会長 湊 正雄